

酒類ガイドライン遵守推進本部だより



平成26年3月19日
全国卸売酒販組合中央会
酒類ガイドライン遵守推進本部

「新たな旅立ち」

委員 荒木 章

3月12日に北陸に「春一番」が吹きました。

北陸に住む者にとって、厳しい寒さから解放され、明るい太陽の到来に心躍る瞬間です。春は、新たな旅立ちの時です。

この度、北陸の卸売組合は、石川が存続組合として富山・福井を吸収合併し、4月1日より「北陸三県卸売酒販組合」として生まれ変わってスタートしてまいります。

酒類業界は2003年の小売り免許規制緩和以降、大きく変化してまいりました。酒類販売の主役は酒販店からスーパー・CVS・ドラッグなどの組織小売店に移ってしまいました。

必然的に大手卸売業者がチェーン店進出と共に、地方に進出してまいりました。地方では、酒販店の衰退と共に地方卸売業者も弱体化してまいりました。

加えて、小売業の価格競争激化のシワ寄せが、卸の経営を圧迫している状況です。2003年度に北陸の組合員は45社でしたが、2013年度では33社と10年間で12社減少してしまいました。支社・支店の重複を除くと三県で23社となります。組合員の減少で、役員の構成にも支障が出るなど、組合の存続も困難な状況となりました。

そうしたことから、更なる組合機能の充実と組織力の強化を図るためにも合併を求める声が再燃し、昨年7月に合併検討委員会を立ち上げました。その後、合併先行組合等へのヒヤリング・課題解決のためのワーキンググループの設置・開催など短期間に集中して協議を行ってまいりました。

国税ご当局からも、当初から適切なお指導を頂き、この度、合併認可の運びとなりました。ご協力いただきました皆様には深く感謝申し上げます。

組合が合併したからと言って、昨今の厳しい経営環境が改善するものではありません。今後は新組織の元、市場安定と健全な発展をめざし、魅力ある業界を再構築してまいりたいと考えています。

北陸では、生販三層が協力し、3月には「大吟醸初しぼり」、9月には「ひやおろし」など季節ごとに魅力ある商品を提供・需要喚起の活動をしています。

また、来年3月には新幹線が開通し、東京～金沢間が2時間半で繋がります。北陸には大自然・食文化・伝統芸能・温泉などたくさんの宝があります。

今後、これらの宝を生かすべく、北陸三県が力を合わせて生販三層が心を一つに、活発に活動していきたいと思えます。
 今後ともご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

○ 平成 26 年 2 月ビール類の出荷状況

(単位：kl・%)

期間 区分	2 月			1 ～ 2 月		
	当月数量	前年数量	前年比	本年数量	前年数量	前年比
ビール	172,807	167,694	103.0	314,814	296,846	106.1
発泡酒	53,064	53,365	99.4	93,011	91,945	101.2
新ジャンル	145,653	142,280	102.4	248,351	234,594	105.9
計	371,524	363,339	102.3	656,176	623,385	105.3